

朝日 歌壇 俳壇



＜日曜日のプローチ 17＞ junaida

◆高山れおな選

雲海へ祝詞朗朗奥の宮 (高岡市) 新井 久男
☆ミスターはいわゆる一つの夏の空 (さいたま市) 成田 英明
ト書きには浜屋顔にキスとあり (横浜市) 正谷 民夫
☆真ん中にごりの唐揚げ逆立てて (越谷市) 安居院半樹
喜雨の打つ路地は忽ち埃の香 (群馬県みなかみ町) 長浜 利子
枝豆や食べ始めた食べ尽す (東京都板橋区) 東金 夢明
高々と自撮り棒ゆく夏祭 (四日市市) 砂原 治明
よくもまあこんな炎暑に吟行隊 (神戸市) 小柴 智子
ハーレーのドットドットドット雲の峰 (川越市) 益子さとし
令和七年七月七日入籍しました私達 (村上市) 佐藤 直子

【評】新井さん。立山の山頂、雄山神社峰本社か。荘厳な景を堂々たる声調で。成田さん。故人の口癖を使った追悼句。巧い。正谷さん。ややエキセントリックな場面が意味するのは幸福、それとも？ 十席、佐藤さん。おめでとうございます。

◆小林貴子選

☆真ん中にごりの唐揚げ逆立てて (越谷市) 安居院半樹
遊ぼうと誰かに呼ばれ屋簷下 (梶野市) 内木場拓史
返答は一回回す日傘かな (甲府市) 藤巻 嘉秀
湯上がりの妻のほてりや夕牡丹 (鎌倉市) 小椋 昭夫
わかりやす過ぎる政見しぐれ (鳥取県琴浦町) 馬野慎一郎
プール出て己が重さに驚きぬ (草津市) 井上 次雄
ジョッキ上げ新じゃが料理ドイツ風 (伊東市) 山田みづほ
河童忌や歯車逆にギギギン (京都市) 武本 保彦
かりそめの恋のごと夕宵の色 (筑西市) 津久井延子
勝てないが負けたくはない炎帝に (葛城市) 山本 栄子

【評】一句目の「ごり」はハゼ科の淡水魚をいう地方名。尾をピンと立てた形で皿に盛られている。二句目、「拓史君遊びましょ」と懐かしい声が聞こえた気がする。三句目、一回回されたのはノーでなくイエスかな。四句目、ほんのり美しい。

◆長谷川權選

夏草や恥を晒して俳句詠む (三郷市) 木村 義熙
朝早く蟻が一匹徑急ぐ (いわき市) 馬目 空
☆ミスターはいわゆる一つの夏の空 (さいたま市) 成田 英明
次々と白きシャツ来るネット裏 (柏市) 小畑 昌司
生涯を太陽族やサングラス (伊万里市) 萩原 豊彦
鋼なす木乃伊に似たりわが裸 (新座市) 丸山 巖子
夕焼を背にして金魚売急ぐ (奈良市) 田村 英一
あの夏のあの人とはや四十五年 (戸田市) 和田 信一
まつすくな道のさみしき道をしへ (川越市) 渡邊 隆
落選は入選の母はたた神 (高知市) 山下健太郎

【評】一席。心の内を晒すこと。俳句にかぎらず、ものを書くことは。二席。どこへ行くのだろう。蟻には蟻の事情あり。三席。すかっと明るい夏の空。すでに思い出。十句目。とはいももの言葉少ない母である。そこから何を読みとるか。

◆大甲 章選

落蟬の明日無きこゑを絞り切る (国分寺市) 野々村澄夫
白髪船頭の漕ぐ涼み舟 (相模原市) はやし 央
片蔭や飼い主同士大同土 (深谷市) 時田 清
島に生れ鳥を離れず生身魂 (さいたま市) 齋藤 紀子
銀婚の年も青梅漬けにけり (横浜市) 秋野 晃枝
祖母と孫見よう見まねで盆踊り (東京都世田谷区) 塩田 泰之
築百年梁に抱きつく蟬のから (熊本県水川町) 秋山千代子
父の忌や玫瑰の涙去り難く (境港市) 大谷 和三
海見ゆる席譲り合ひ夏料理 (横浜市) 前田なみき
裸子や海の色着てサングラス (野田市) 三浦 侃

【評】第1句。「明日無きこゑを絞り切る」と一気に言いおろして迫力あり。蟬の一生は斯うして終わる。第2句。「白髪船頭」と「涼み舟」の取合せが心地好い。第3句。飼い主は飼い主同士語り合い、犬は犬同士戯れ合っている。犬の散歩の一場面。

うたをよむ 引用のゆくえ

郡司 和斗

テレビアニメ『機動戦士 Gundam (ジュンダム)』監督：鶴巻和哉の放送が6月で終わった。本作は過去のガンダム作品からの大量の引用で成り立っており、絵的な快楽や物語の展開よりも、そのメタ的な方法に注目が集まり、賛否が分かれた。私は本作に袋小路的な印象を強く抱いたが、同時に、引用という方法がこれまで視聴者の反応を引き出す時代もこれまではなかったのでは、と思った。私を使う たとえば君が傷ついてくじ

けそうになった時は 仲井渚「予告」
「冬のシカゴと短歌賞」というインタネット上での自主企画で話題になった作品。二句目以降は杉本竜一「Belleve」という曲の歌詞からの引用である。脳裏によぎる原曲の調べと定型のせめぎ合いから生まれる独特な韻律感覚に胸がさわめく。
「百年先も愛を誓うよ」ピカピカに今完璧に幸せてあれ
馬場めぐみ「無数を振り切っていけ」

初句二句は嵐「One Love」より。歌集では妹の結婚式の場面を描いたものでもエモーションナルだが、一首だけ抜き出すとむしろ歌詞や三句目以降の言葉の軽薄さが目立つ。読者としては二面性が読み取れてしまうのも面白い。
このような作品群は非常に新鮮に時代と共鳴する一方で、ジークアックスと同様にどこか行き詰まり感も覚える。先行する言語表現の影響はもちろん誰もが受けている。そのリソースを記号操作の上手さに取まらないう形で表現できるかどうかは評価の分け目か。数十年後、どう転んだと判断されるのか楽しみだ。(歌人)

◆8月17日の歌壇俳壇面は休載します。

広島と長崎でjunaidaの作品展示 本欄挿絵を担当するjunaidaの大規模個展「IMAGINARIUM」を広島市のひろしま美術館で開催中。長崎市の長崎県美術館では、被爆樹木を題材にした福山雅治の楽曲「クスノキ」のアニメーション作品を上映、映像の元になったjunaidaの原画を展示中。いずれも31日まで。

風信

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます。

